

ちくご 筑後川総合水系 環境整備事業

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後3年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



1. 筑後川流域の概要 [筑後川の概要と特徴]

【筑後川の概要】

- ・ 流域面積 : 2,860km²
- ・ 幹川流路延長 : 143km
- ・ 流域内市町村 : 18市12町1村
- ・ 流域内人口 : 約 110万人
(平成27年3月第10回河川現況調査<調査基準年: H22年>)

■各区間の特徴

<上流部 (夜明ダム～上流端)>

- ・ 上流部は、日田美林として知られるスギやヒノキからなる森林に恵まれた山間渓谷を形成し、その中に**松原ダム及び下笠ダムが静かな湖水**を湛えている。
- ・ **日田市は「水郷ひた」として昔から川との係わりが深い地域**で、古い町並が残る豆田町、隈町、日田温泉等は、川沿いの観光地として有名である。

<中流部 (筑後大堰～夜明ダム下流)>

- ・ 中流部の巨瀬川合流点から夜明峡谷までの区間は、九州を代表する穀倉地帯である筑紫平野を緩やかに蛇行しながら流れ、瀬、淵、ワンド及び河原等の**多様な動植物の生息・生育・繁殖環境を形成**している。
- ・ **流域最大の人口を有する久留米市に広がる河川敷は、市民にとって貴重なオープンスペース**となっており、人々の憩いの場として盛んに利用されている。

<下流部 (河口～筑後大堰)>

- ・ 下流部 (筑後川下流の筑後大堰から河口までの区間) は、広大な沖積平野及び干拓地の中を大きく蛇行しながら有明海へと注いでいる。
- ・ この区間は、国内最大の干満差の影響を受け**約23km に及ぶ長い区間が汽水域**となり、**河岸には干潟が形成**されるなど、有明海特有の環境を有し、**有明海固有の貴重な魚類等の生息・生育・繁殖環境を形成**している。



1. 筑後川流域の概要〔筑後川の利用状況〕

＜筑後川の利用状況＞

◆筑後川の堤防や河川敷では、松原ダム、下釜ダム等の湖面を利用した遊覧船運航や地域交流のイベント、日田温泉、筑後川温泉及び原鶴温泉等の観光地における屋形船、アユ梁、鵜飼い、河川敷や堤防における散策やスポーツ、マラソン大会、花火大会、河川内における水上スポーツ、カヌー等の練習、下流でのエツ漁など、多岐に利用されている。

◆筑後川は、住民団体や小中学生による生物調査や水質調査等の環境学習活動の場として利用されており、「筑後川防災施設（くるめウス）」、「三隈川交流センター（朝霧の館）」、「筑後川交流館（はなむね）」などの防災施設を平常時に活用し、情報発信、学習支援及び交流促進を推進している。



湖面を利用した遊覧船
(松原ダム)



屋形船（日田市）



筑後川花火大会
(久留米市)



環境学習活動
(久留米市)

1. 筑後川流域の概要〔筑後川水系の目標〕

＜河川環境の整備と保全に関する目標＞（筑後川水系河川整備計画抜粋）

- ◆ 河川環境については、治水、利水との調和を図りつつ、多様な動植物の生息・生育環境を保全・再生を目指すこととしている。
- ◆ 筑後川の歴史・文化等の地域特性を踏まえ、周辺の自然や町並み等と調和した良好な河川景観の形成を目指すこととしている。
- ◆ 水質については、環境基準を維持するとともに流域全体で更なる水質の向上を目指すこととしている。
- ◆ 河川空間の利用については、秩序ある利用を維持し、河川の持つ多面的な機能が更に発揮されることを目指すこととしている。

1. 筑後川流域の概要〔筑後川総合水系環境整備事業の概要〕

＜事業評価（再評価）対象事業の概要＞

◆ 今回は、事業完了している城島地区、日田地区、合川地区の水辺整備、松原・下笠ダムの水環境整備の事業効果を含め、事業継続中の久留米市街部地区の水辺整備について、事業評価（再評価）に諮るものである。

区 分	箇所名	事業期間
水 辺 整 備	じょうじま 城 島 地 区 (H26完了報告済)	平成16年度 ～平成18年度
	ひ た 日 田 地 区 (H26完了報告済)	平成17年度 ～平成22年度
	あいかわ 合 川 地 区 (H26完了報告済)	平成19年度 ～平成21年度
水 環 境 整 備	まつばら しもうけ 松原・下笠ダム (H26完了報告済)	平成 5年度 ～平成25年度
水 辺 整 備	くるめ しがいぶ 久留米市街部地区	平成27年度 ～平成34年度
筑後川総合水系環境整備事業		平成 5年度 ～平成34年度



1. 筑後川流域の概要〔継続箇所の地域の取り組み状況〕

<継続箇所の地域の取り組み状況(久留米市街部地区)>

- ◆久留米市では、「久留米市新総合計画（第2次基本計画）」において、本市を貫流する九州一の大河筑後川の水辺空間が美しき景観を創り出すとともに地域の憩いの場として利用されていることを踏まえ、この水辺空間の保全を図るとともに**学習機能や観光機能など新たな視点で活用する水の里づくり**を推進することとしている。
- ◆久留米市街部地区は、筑後川中流に位置し、地域の中核都市となっており、**九州新幹線（久留米駅）が平成23年3月に開業**するなど、賑わいを増している。
- ◆久留米市は、市を流れる筑後川等の河川空間をより利用しやすくすることを目的に、昭和57年度に**リバーサイドパーク基本計画**を策定し、国・県・市で協力しながら、河川環境整備を進めており、現在では、筑後川は**市街部の貴重なオープンスペース**として、**市民の憩いの場**となっている。
- ◆久留米市をはじめとした筑後川中流域の自治体が相互に連携し、筑後川を基軸とした地域活性化や地域連携に資することを目的に、平成17年度に**筑後川中流域未来空間形成事業推進計画**を策定し、広く流域の住民と行政が一体となり、筑後川の空間が持つ**多面的な機能の総合的な活用と整備**を進めていくこととしている。



舟運体験乗船会



ウォーキング大会



久留米リバーサイドパーク

2. 事業の必要性等〔筑後川総合水系環境整備事業の概要〕

<継続箇所の概要(久留米市街部地区)>

1) 事業の必要性等

- ◆当該地区はリバーサイドパーク基本計画区域となっているものの、高水敷は雑草が繁茂しており、水辺へのアクセスが困難な状況であり、対岸では河川公園の整備などが進む等、市民から安全に河川空間を利用できるよう整備を望まれている。



雑草の繁茂状況



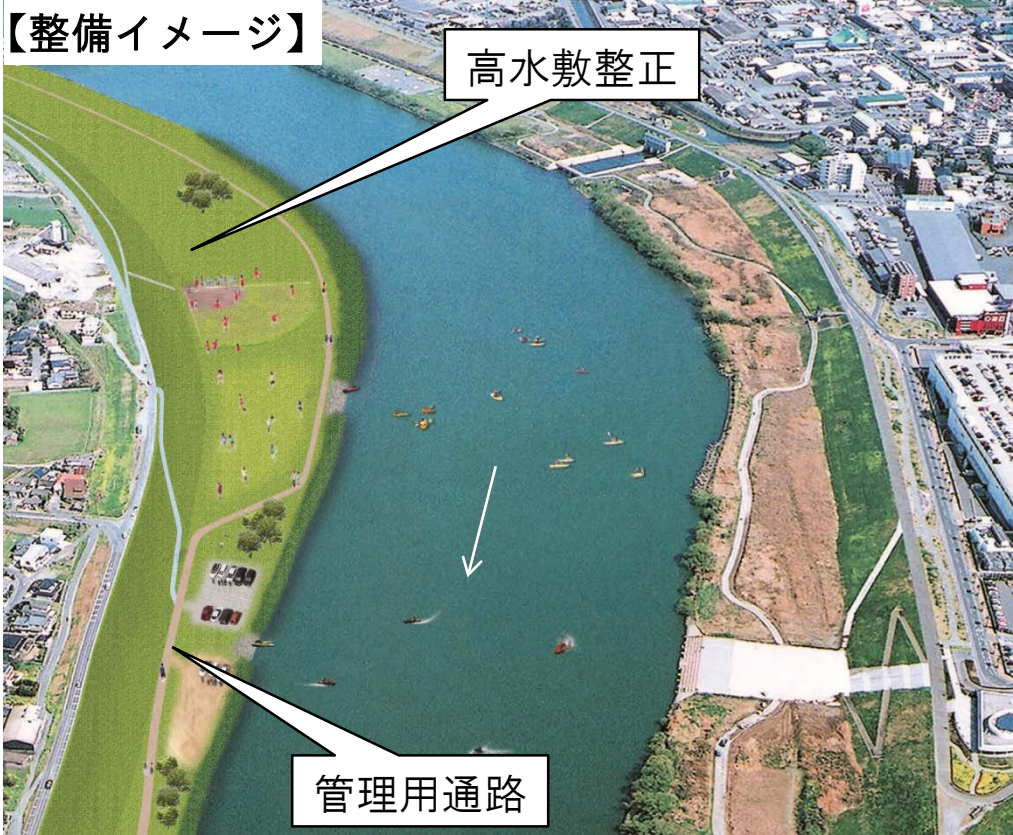
- ◆久留米市街地部に位置する筑後川の広大な水辺空間を活かして高水敷整正及び管理用通路を整備することで、地域の活性化や安全安心に資するとともに、河川巡視や河川管理の円滑化、河川利用の安全の向上を図ることが可能となる。

2. 事業の必要性等〔筑後川総合水系環境整備事業の概要〕

2) 事業の概要・目的

- ◆地域活性化や河川景観の保全を図るとともに、河川利用の安全性やアクセス、維持管理の向上を図るため、高水敷整正や管理用通路を整備する。
- ◆高水敷で張芝を施工する久留米市との工程調整により、整備期間が1年延伸となる。
- ◆整備が完了した箇所から供用を開始し、順次モニタリングを実施していく（事業期間の変化無し）。

【整備イメージ】



【概要】

位 置	筑後川 右岸 29k600 ～ 31k000付近
事業区分	水辺整備
主 整 備 内 容	高水敷整正、管理用通路
事 業 費	1.4億円
整 完 了 年	平成30年度
事業期間	平成27～34年度

【工程表】

工 種	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
高水敷整正								
管理用通路								
モニタリング 調査等								

2. 事業の必要性等〔筑後川総合水系環境整備事業の概要〕

3) 事業の推進体制

- ◆平成26年8月から地域住民代表、久留米市及び国土交通省により構成された「筑後川（宮ノ陣校区）かわまちづくり協議会」を設立し、整備内容、利活用、維持管理等に関する活発な議論を経て、**日常的な施設管理、清掃等**については、**地域住民、地元自治体により実施**していくことになっている。
- ◆今後、**日常的な散策、高水敷を活用したスポーツやイベント開催の場**として利用していくことになっている。



筑後川（宮ノ陣校区）かわまちづくり協議会の開催状況



整備を実施することにより見込まれる利活用の状況
（日常的な散策、高水敷を活用したイベントの開催）

3. 前回評価時からの変化

項 目	前回評価時 (平成26年度)	今回評価時 (平成29年度)	変更理由
総事業費	約56.3億円 城島地区 : 約1.3億円 日田地区 : 約9.5億円 合川地区 : 約2.9億円 松原・下釜ダム : 約41.2億円 久留米市街部地区 : 約1.4億円	約56.3億円 城島地区 : 約1.3億円 日田地区 : 約9.5億円 合川地区 : 約2.9億円 松原・下釜ダム : 約41.2億円 久留米市街部地区 : 約1.4億円	久留米市街部地区の整備期間延伸に伴う変更
整備完了年	平成29年度	平成30年度	
B／C	2.9	3.0	
B(便益)	274.2億円	319.4億円	
C(費用)	95.9億円	107.7億円	

※B／Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

4. 事業の投資効果〔費用対効果等〕

<費用対効果等>

	事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B/C
全事業	56.3億円	—	319.4億円	107.7億円	3.0
完了箇所	54.9億円	—	274.3億円	102.0億円	2.7
水辺整備	13.7億円	—	161.9億円	21.6億円	7.5
城島地区	1.3億円	高水敷整正、坂路	68.3億円	2.8億円	24.1
日田地区	9.5億円	管理用通路、護岸、 高水敷切り下げ	26.8億円	14.6億円	1.8
合川地区	2.9億円	管理用通路、施設撤去	66.9億円	4.2億円	16.0
水環境整備	41.2億円		112.4億円	80.4億円	1.4
松原・下笠ダム	41.2億円	植栽工、保育工、 水質浄化施設、管理用通路	112.4億円	80.4億円	1.4
継続箇所	1.4億円	—	45.1億円	5.6億円	8.0
水辺整備	1.4億円	—	45.1億円	5.6億円	8.0
久留米市街部地区	1.4億円	高水敷整正、管理用通路	45.1億円	5.6億円	8.0

	アンケート 実施年度	アンケート 配布数	有効 回答数	集計範囲	集計 世帯数	支払い意思額 (円／月・世帯)
城島地区	平成23年度	1,430	156	半径10km圏内	84,739	203
日田地区	平成23年度	1,400	185	半径10km圏内	24,498	322
合川地区	平成23年度	1,440	176	半径10km圏内	81,012	234
久留米市街部地区	平成23年度	1,440	164	半径10km圏内	81,012	216

5. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や事業手法、施設規模等の見直しの可能性

(1) 今後の事業展開

- ◆久留米市街部地区においては、今後も地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、平成27年度に事業に着手し、平成30年度に整備を完成させる予定である。平成31年度以降はモニタリング調査等を実施し、平成34年度に完了予定である。

(2) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆久留米市街部地区では、平成26年8月より地元住民、地元自治体等で構成する「筑後川（宮ノ陣校区）かわまちづくり協議会」が開催されるなど、地域の協力体制が整備されており、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

(3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ◆久留米市街部地区の整備内容については、計画段階から「筑後川（宮ノ陣校区）かわまちづくり協議会」において議論を重ねた上で、河川管理面、河川利活用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

(4) コスト縮減の方策

- ◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。

6. 対応方針（原案）

- ◆ 久留米市では、都市景観の形成、自然環境保全、市民の憩いの場やレクリエーションの場、防災機能等、多様な役割を持つ基幹公園として、筑後川リバーサイドパークの整備を進めており、久留米市街部地区における安全に安心して利用できる水辺空間の整備を強く要望されている。このため、国交省では高水敷整正、管理用通路等の環境整備事業を行うものである。
- ◆ 平成26年8月から地域住民代表、久留米市、国土交通省が参加する「筑後川（宮ノ陣校区）かわまちづくり協議会」を開催し、整備や利活用・維持管理等に関する活発な議論を経て、日常的な施設管理、清掃等については、地域住民、久留米市により実施するものとされた。以上により、地域の協力体制が整っている。
- ◆ 費用対効果について十分高い事業である。

以上より、引き続き事業を継続することとしたい。